

第 2 次

広 幡 地 域 ま ち づ くり 計 画

広幡はひとつ ～笑顔あふれるまち～

2023 年

広幡地域自治町民会議

目次

はじめに	1
1 地域まちづくり計画のねらい	1
2 地域まちづくり計画とは	2
3 地域まちづくり計画の策定方法	2
第1章 広幡地域の現状	3
1 広幡地域の位置と地形	3
2 広幡地域の歴史	5
3 人口の動向	7
4 アンケート調査結果から見た現状	8
5 ワークショップでの意見から見た現状	12
6 長期的な社会潮流	13
第2章 広幡地域の課題	14
1 地域の現状から見た課題	14
2 計画づくりに際しての課題	15
第3章 広幡地域の将来像	16
1 「広幡はひとつ」で次代をひらく	16
2 広幡地域の将来像	16
3 まちづくりの目標	17
第4章 まちづくりの取組み	18
1 重点的な取組み	19
2 みんなで進める取組み	23
第5章 計画の推進に向けて	26
1 取組みのスケジュールについて	26
2 地域自治町民会議の活性化	26

はじめに

1 地域まちづくり計画のねらい

広幡地域自治町民会議は、2017年10月20日に発足しました。

その翌年の2018年には、概ね5年間を計画期間とした第1次「広幡地域まちづくり計画」を策定しました。その後、従来からの事業に取り組むのはもちろんのこと、それらに加え、空き家対策セミナーや防災隊講習会、健康セミナー、フリーマーケット、セリ栽培講習会、先進地視察などの多くの新たな事業にも取り組んできました。

さらには2023年の広幡小学校開校150周年に向けて、その関連事業も毎年実施してきました。

しかしながら、2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、住民の行動が制限されることとなりました。これに伴い、計画した多くの事業を2022年まで中止せざるをえなくなり、第1次「広幡地域まちづくり計画」の内容を存分に実行に移すことができずでした。

このことにかんがみ、第1次「広幡地域まちづくり計画」策定時に行ったアンケート結果やワークショップ（広幡まちづくりワーク）での意見を、第2次「広幡地域まちづくり計画」策定において引き継いで活用することが、効果的かつ有意義であると考えました。

第2次「広幡地域まちづくり計画」は、広幡地域の様々な課題やこれからの変化に伴う課題に対応していくためのまちづくりの方向性を示すものです。いわば、将来の広幡地域の「青写真」であり、それに沿って効果的に事業を進めていくことが求められます。

私たちは「広幡はひとつ」という理念のもと、快適な地域生活や良好なコミュニティづくりに取り組んできました。本計画の策定と具体的な事業（取組み）を進めることによって、地域の課題を積極的に解決しながら将来性のある地域を築いていきます。

2 地域まちづくり計画とは

地域自治町民会議は、これからますます進んでいく少子高齢社会に備えるために養老町が独自に定めた地域自治のしくみであり、町内の各地区でその導入が進みつつあります。

地域自治町民会議は、今まで以上に地域が地域の課題解決に自主的に取り組むためのものです。さらに、地域の力を高めながら行政とパートナーシップを密にして、協働により効果的なまちづくりにも取り組んでいくものです。

地域自治町民会議にみんなが参加して今まで以上に「広幡はひとつ」と“力”を結集して、みんなが活躍する地域づくり、若者が定住したくなるまちづくりを進めます。

そのための指針となるのが、第2次「広幡地域まちづくり計画」です。

本計画は、第1次「広幡地域まちづくり計画」を踏まえ、概ね5年間を計画期間としています。5年を経過する時期には計画を見直し、次期計画を立てることにします。

計画期間：2023年度～概ね2027年度

3 地域まちづくり計画の策定方法

① アンケート調査の実施

2017年までにアンケート調査を、全世帯を対象として実施しました。アンケートは563世帯に配布し、回収率は85.1%でした。

② 広幡まちづくりワークの開催

2018年に、広幡まちづくりワークを開催しました。

これは、「総務部会」「安心・安全・防災部会」「環境部会」「健康・福祉部会」「文化・教育部会」（のちの「教育・文化部会」）の5つの部会ごとに分かれて、ワークショップ方式により意見交換を行ったものです。

③ 部会を中心とした計画内容の検討

2023年に、各部会において計画内容の検討を行いました。

第1次「広幡地域まちづくり計画」の内容を踏まえ、これまでの5年間の取り組みを振り返って、各事業の点検・評価、見直し・改善を行いました。

第1章

広幡地域の現状

1 広幡地域の位置と地形

① 養老町の中央部に位置

広幡地域は、養老町のほぼ中央部に位置しています。

地域には、揖斐川に合流する牧田川や、養老山地を源流とする金草川、津屋川などが流れています。ここは、元々低湿な土地が広がり、水田が営まれている平坦な地形から成り立っています。

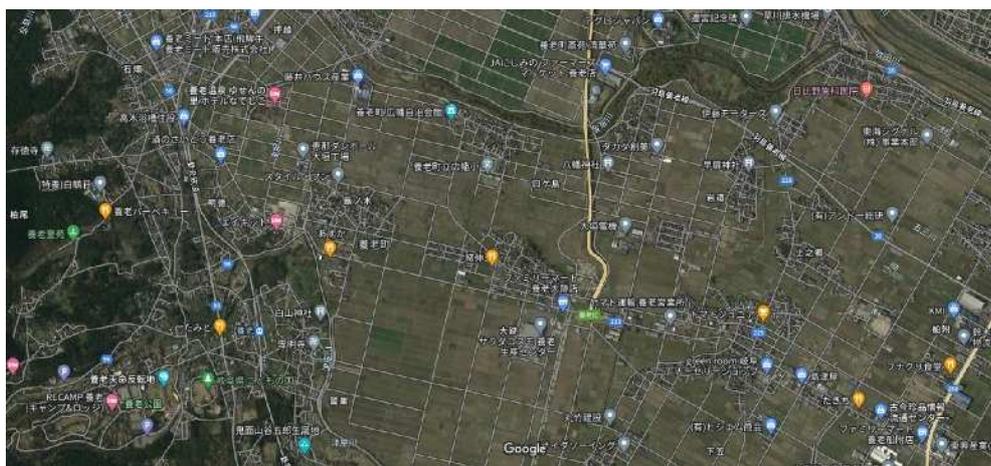
こうした地形の中、比較的高い土地には集落が形成されてきており、ロケ島区、飯ノ木区、大跡区、西岩道区、岩道区、緑町区、南岩道区の7つの集落・居住地域が形成されてきました。

② 養老インターチェンジの開通

広幡地域は幹線道路として県道養老平田線を東西軸に、広域農道が南北軸となっています。

2017年10月には、その交点付近に東海環状自動車道養老インターチェンジが開通しました。これにより、広幡地域は新たな養老町の玄関口となり、広域からの自動車の行き来が盛んになりつつあります。

現在の広幡地域（航空写真）



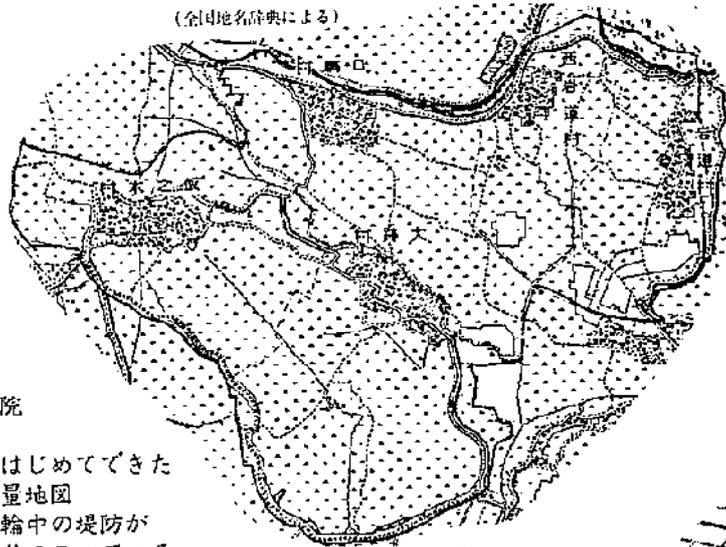
(出典) グーグルマップ, 2023

百年前と後の広幡地区

明治のころの小学名

【広幡付】	八中 寺田 中島 堤外
口ヶ島	藤ノ木 東倉 大墳 源兵衛 山道 五段田 塚田
飯ノ木	殿海道 番匠田 居村 東海道 蓮墳 市道 休息所 安久
大 跡	田中 富前 番戸 赤池 東畑 以ノ戸 段割 空 町 堤外 平
西岩道	中新白 下新白 戸井ノ口 菅墳清水 東浦 村前 西川 道ノ上 茶ノ木原 六段長 中道 飛地 下中道 長代 南屋敷 東屋敷 北屋敷 西家畑 中家畑 川北 村北 井敷
岩 道	村内 林 桶柳 広田 小橋 一本木 長代

(全国地名辞典による)



明治24年
1891
国土地理院

- 日本ではじめてできた近代測量地図
- 飯ノ木輪中の堤防がしっかりとこっている。



昭和60年
1985
中日本航空

- 緑町・南岩道が旧村とちがった姿をみせている
- 土地改良で新しい村づくりがうかがえる。

村がかわる 心もかわる
 ひやくねんまえ
 百年前と後の広幡地図
 あと
 ひろはたちす

(出典) 養老町立広幡小学校「ふるさと広幡」1986年

2 広幡地域の歴史

①牧田川に育まれるとともに水との戦いを繰り返した地形

広幡地域は、牧田川や養老山地からの河川により平野が形成されてきました。古代の条里制に五反田、六反長という地名が見られ、800年ごろには飯ノ木（春ノ木）、大跡の地名も生まれています。

平安時代から鎌倉時代にかけての東西の行き来があり、平治の乱に因む源氏橋もあり、関ヶ原の戦いにも巻き込まれました。江戸時代には、大洪水に見舞われ、飯ノ木輪中などがつくられてきました。水との戦いの歴史は続き、広い範囲の多芸輪中の中に、広幡地域などの多くの輪中が含まれる形になりました。

その後も水害が繰り返し発生して、明治時代以降は1896年の西濃大洪水、1959年の集中豪雨と伊勢湾台風による被害が特に甚大でした。その後、1960年の耕地整理により輪中堤の歴史は終わりました。

また、広幡村は1897年にロヶ島村、飯之木村、大跡村、西岩道村、岩道村が合併してでき、1954年には養老町として合併して養老町広幡地域となりました。さらに現在までには人口増加の時代に住宅団地も形成されて、かつての5区（村）が7区まで増えました。

②学問に熱心な地域

広幡地域の歴史で特筆すべきことは、明治時代に時習学校と立心第二学校という二つの学校が誕生したことです。その後、ロヶ島小学校となったことなどを経て、1907年に広幡小学校尋常科ができ、1947年には広幡村立広幡小学校となりました。

かつて1970年前後には、小学校を合併する議論もありましたが、PTAが教員を雇用するなど、住民が小学校存続の運動を強力に進めました。その結果、1971年には広幡小学校を新築して存続の請願を町議会に行い、それが認められ、養老町立広幡小学校として今日に至っています。

広幡地域の主な歴史

720 年ごろ	・条里制の地名が見られる。(飯ノ木一五反田、西岩道一六反長)
800 年ごろ	・春ノ木(飯ノ木)、大跡の地名がうまれている。
866 年	・貞観寺へ土地をささげる。熟田一多芸荘、空閑地一広幡西部
1159 年	・義朝やぶれ、源氏橋からにげる。
1600 年	・関ヶ原の戦いで地もと軍たたかう。
1650 年	・枝広の大洪水
1656 年	・飯ノ木輪中できる。
1751 年	・宝暦治水完了
1873 年	・時習学校(大跡)、立心第二学校(岩道)ひらく。
1896 年	・西濃大洪水おきる。
1897 年	・ロケ島、飯ノ木、大跡、西岩道、岩道五ヶ村合併して広幡村となる。
1907 年	・広幡小学校尋常科六年となる。
1943 年	・田中道麿翁邸址標石設置
1954 年	・養老町広幡となる。
1959 年	・集中豪雨と伊勢湾台風
1971 年	・広幡小学校、新築存続を議会で請願受理 ・みどり町自治会発足
1974 年	・広幡小学校新校舎完成
1976 年	・広幡小学校屋内運動場(体育館)完成
1978 年	・南岩道自治会発足 ・広幡保育園園舎完成
1989 年	・広幡公民館開館
1993 年	・広幡小学校開校 120 周年記念式典開催
1994 年	・広幡橋開通 ・各地区に地名などの標柱を建立
2006 年	・中島志保さん、スノーボード・ハーフパイプでトリノ五輪出場
2017 年	・東海環状自動車道養老インターチェンジ開通 ・広幡地域自治町民会議発足
2022 年	・富田蓮さん、プロ野球ドラフト会議で指名される。
2023 年	・広幡ふれあいセンター開館 ・広幡小学校開校 150 周年記念式典開催

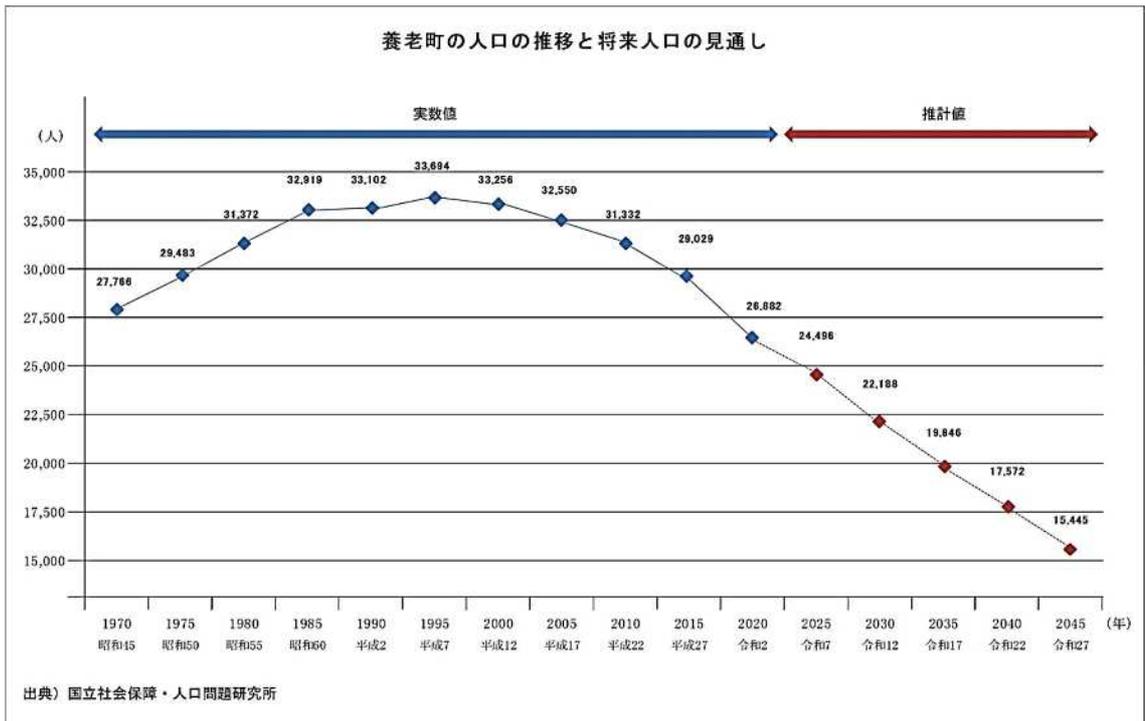
(出典)・養老町立広幡小学校「ふるさと広幡」1986年 ほか

3 人口の動向

① 養老町の人口の推移と将来人口の見通し

養老町の人口は 26,807 人（2023 年）ですが、人口のピークは 1995 年に過ぎており、減少局面に入っています。

今後の人口見通しによると、町の人口は今から 20 数年後の 2045 年には 15,445 人となり、2023 年と比較すると、10,000 人以上の減少が予想されます。



② 広幡地域の人口の推移と将来人口の見通し

広幡地域の人口は 1,684 人（2023 年）ですが、人口のピークは 2000 年に過ぎて減少局面に入っています。



4 アンケート調査結果から見た現状

アンケート調査結果の一部を抜粋すると、次のような特徴があります。

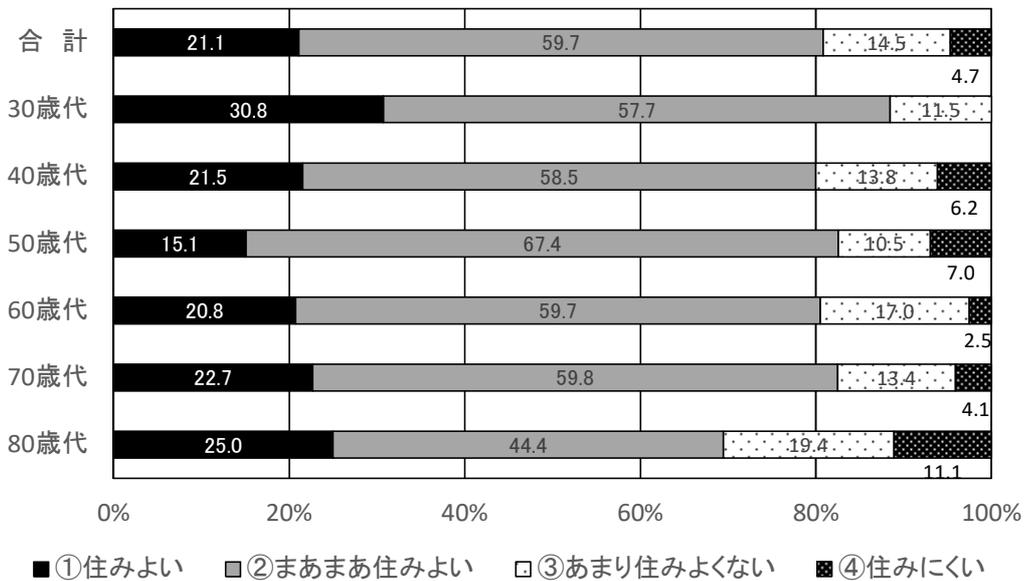
①地域の住みよさ

合計（全体）では、「①住みよい」が21.2%、「②まあまあ住みよい」が59.7%、「③あまり住みよくない」が14.5%、「④住みにくい」が4.7%となっています。『住みよい』（「①住みよい」+「②まあまあ住みよい」）が80%を超えており、住みやすさの評価は非常に高いと言えます。

年齢別に見ると、80歳代を除いて、全ての年齢層で『住みよい』が80%以上見られます。

■ 1 広幡地区は住みよいと感じていますか<年齢別>

地区の住みよさ



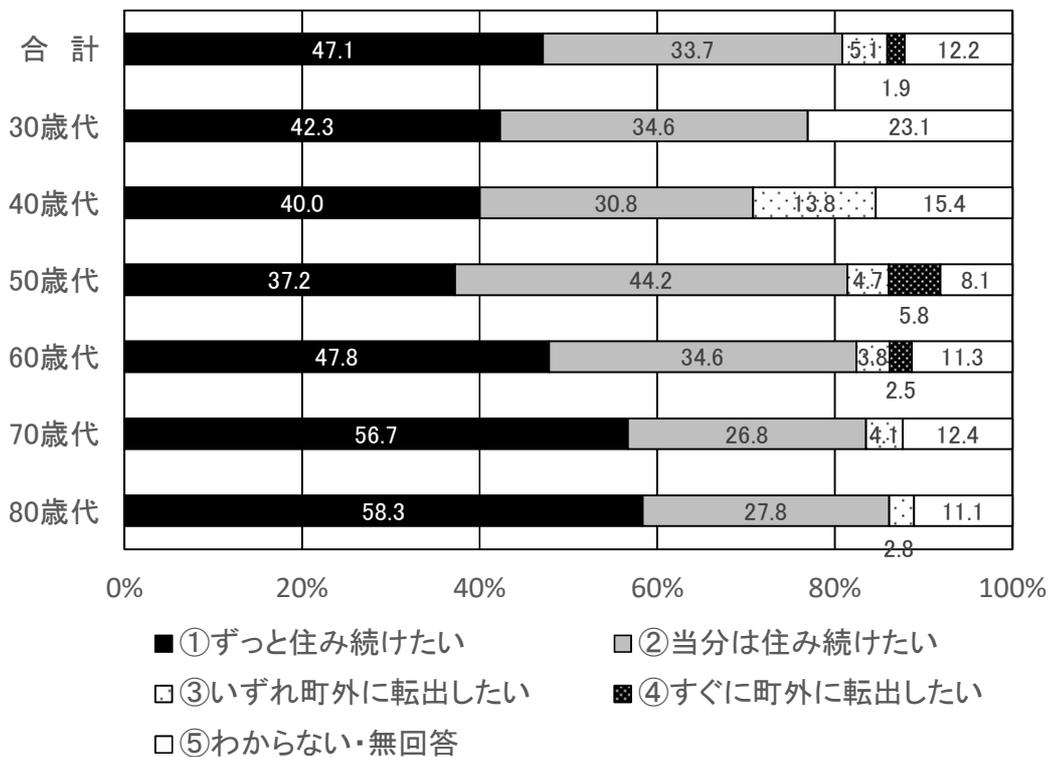
②居留意向

合計（全体）では「①ずっと住み続けたい」が47.1%、「②当分は住み続けたい」が33.7%で、合わせて『住み続けたい』が80%強となっています。「③いずれ町外に転出したい」が5.1%、「④すぐに町外に転出したい」が1.9%で、合わせて『転出したい』が約7%となっています。

年齢別では、子育て期の30歳代と40歳代で『住み続けたい』が80%未満と、他の年齢層と比べてやや低くなっています。

■ 2 広幡地区に住み続けたいですか<年齢別>

居留意向



③項目別の地域の状態の評価

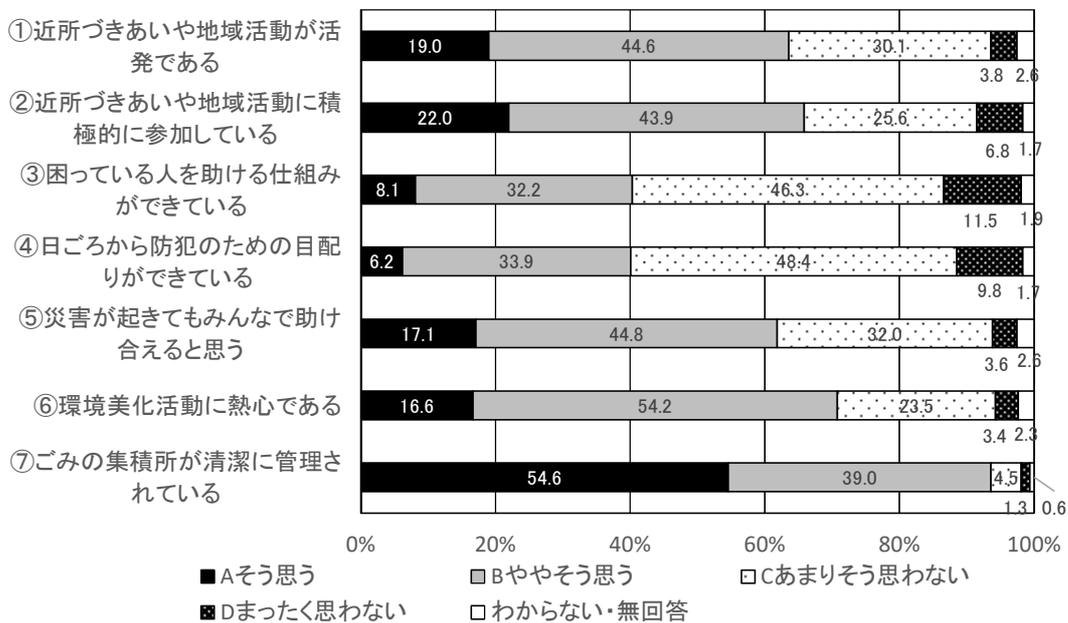
それぞれの環境について『そう思う』（「Aそう思う」＋「Bややそう思う」）の割合を見ると、「⑦ごみの集積所が清潔に管理されている」（94%）、「⑥環境美化活動に熱心である」（71%）というごみや環境美化については、住民が非常に熱心であることがうかがえます。

「②近所づきあいや地域活動に積極的に参加している」、「①近所づきあいや地域活動が活発である」、「⑤災害が起きてもみんなで助け合えると思う」という地域活動や地域のつながりについても、『そう思う』が60%強で高くなっています。

一方、「④日ごろから防犯のための目配りができている」と「③困っている人を助ける仕組みができている」は『そう思う』が約40%であり、防犯や地域の支え合いの面について、やや課題があると思われます。

■ 3 住んでいる地区に対して、それぞれのことをどう感じていますか<全体>

項目別の地域の状態の評価

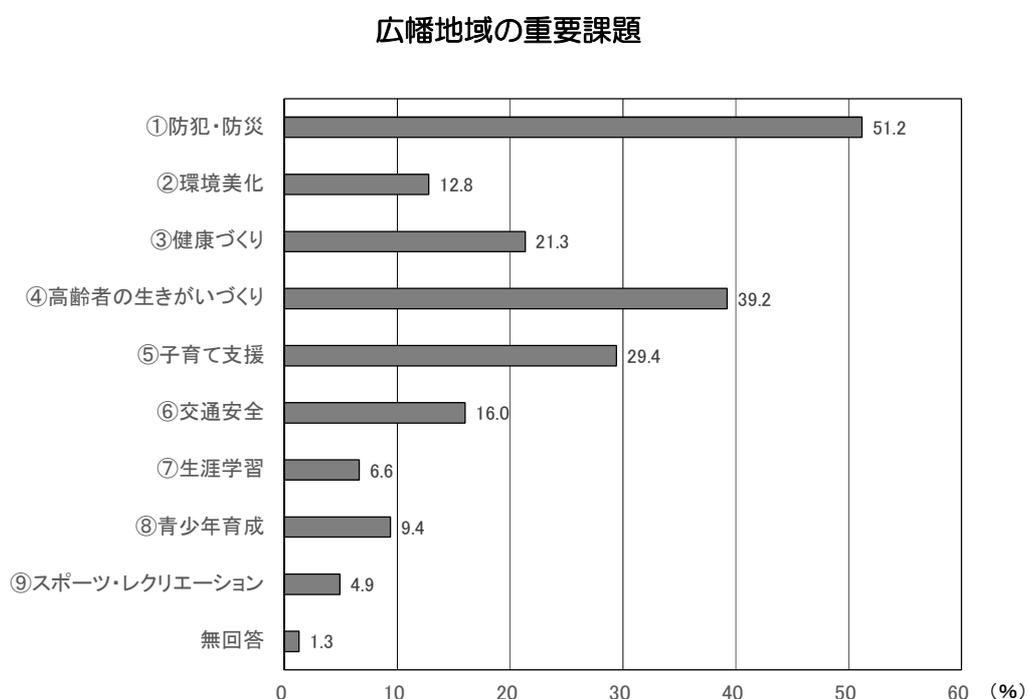


④広幡地域の重要課題

「①防犯・防災」が51.2%と最も高く、次いで「④高齢者の生きがいづくり」(39.2%)、「⑤子育て支援」(29.4%)、「③健康づくり」(21.3%)となっています。

過去に水害の歴史を繰り返しており、現在はゲリラ豪雨等による災害が全国で多発していることや、世相を反映して防犯・防災対策が求められていると考えられます。

■ 4 広幡地区の課題として最も重要と考えられる項目(2つに〇) <全体>



5 ワークショップでの意見から見た現状

「広幡まちづくりワーク」では、地域の強み（魅力）と弱み（心配なこと）について意見交換を行いました。

広幡地域の強み（魅力）と弱み（心配なこと）

	強み（魅力）	弱み（心配なこと）
地域のつながりについて	<ul style="list-style-type: none"> ○住民が協力的 ○力を合わせて1つのことに当たる。団結力がある。 ○「広幡はひとつ」の精神でまとまっている。 ○活動の協力体制が良い。 ○それぞれの活動が整然と行われる。 ○少人数で指示が伝わりやすい。 ○地区によってはボランティアが協力して助け合いが行われている。 ○近所づきあいがある。見守り合いができる。小さな町の強みである。 ○挨拶を子どもから大人まで行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢層の意識に差がある。 ○嫌なことには積極的に意見を出してもらえない。 ○活動の積極性に欠ける。 ○引っ込み思案で村意識がある。 ○保守的で時代の流れに沿った対応ができていない。 ○自分の意見を表に出さない。 ○古い習慣がまだまだ残っている。 ○旧来の踏襲が多く、新しく前向きな取組みが無い。 ○人とのつながりが無い。 ○近所とかかわりたくない意識もある。 ○リーダーが少ない。 ○団体の兼務が多い。世代交代を含め色々な人が役を経験するべき。
人口について		<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少している。人口が少ない。 ○結婚で町外へ引越し。地元の友人が出て行く。 ○若者が住まないで空き家が増えている。
防災環境	<ul style="list-style-type: none"> ○水防活動について熱心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団の団員確保が課題。 ○仕事の終わりが遅く、消防団の訓練時間が少ない。 ○広幡地区のマップが少ない。 ○平日昼の火災対応 ○訓練場所がない。
交通について	<ul style="list-style-type: none"> ○養老インターにより交通の便が良くなった。企業を誘致できる。 ○交通安全活動に多くの人参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通の便が悪い。 ○道路が悪い。道が狭い。 ○駅の駐車場を無料に。 ○公共交通の便が悪い。
自然環境・居住環境について	<ul style="list-style-type: none"> ○清らかな水に恵まれている。自噴している水がある。 ○環境美化への関心が高い。 ○自然環境がすばらしく、集落を出ると一面の緑 ○水に囲まれて小魚が多い。小さな水路にハリヨ、メダカ、絶滅危惧種が生息している。 ○ゴミの分別ができており清潔 ○学童保育は遅くまで行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の豊かさに気付いていない。 ○高齢者のとじこもり回避が必要
行事、文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の参加者が集まる。 ○地域行事には参加・協力する人が多い。 ○世代を超えた行事等で顔見知りになっている。 ○住民がいろいろな行事に参加をする。 ○バルシューレは世話役がいれば出来る。 ○祭りや伝統行事（左義長、地蔵盆）が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史文化などを活かした実力が活かせない。 ○歴史などの背景が弱い。

第2章

広幡地域の課題

1 地域の現状から見た課題

広幡地域の現状を踏まえて課題を整理すると、次のように大きく3点をあげることができます。

①定住対策と人づくり

広幡地域では若者が流出して人口が減り、地域の高齢化がますます進むという懸念があります。このため、地域で生まれた人達ができるだけ住み続けることができるように、地域で可能な地域社会の環境づくりが課題です。

また、子育てが快適にできたり、子どもがたくましく健康に成長し、地域への愛着を高めること、地域のつながりの強さといった良い面を維持して、若い世代が地域社会を積極的に築いていくことが課題です。

なお、広幡地域には住民が一体となって小学校を維持したという輝かしい歴史があり、教育環境を大切に継承することも課題です。

②安全・安心な環境の維持

少子高齢化が進んでおり、安全に日常生活を送り、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるというニーズが高まります。このため、地域において独り暮らしの人の生活支援や、介助が必要な人の支援などが課題です。このため、みんなができるだけ健やかに暮らし続けることができるように、スポーツなどの健康づくりの機会や趣味を楽しむことができる環境づくり、生きがいを得る機会の提供が課題です。

また、広幡地域は過去に水害にみまわれた歴史があり、水害などへの災害対策が求められます。今後、南海トラフ巨大地震の発生や、それに伴う液状化現象も懸念されるため、消防団や地域の防災体制を強くすることも課題です。

さらに、東海環状自動車道養老インターチェンジが開通し、自動車交通が増えており、それを地域の活性化に生かす一方で、交通安全対策や防犯対策もますます求められます。

③美しい生活環境・自然環境の維持

広幡地域は清流が身近で自然の恵みが残っている一方で、自動車交通の

増加などに伴い地域の各所でゴミのポイ捨てが目立っています。このため、ゴミのポイ捨てを抑止するための取組みの工夫や、ゴミを捨てにくい美しい地域を維持していくことも課題です。さらに、豊かな水に育まれてきた身近な自然環境を大切にすることが必要です。

2 計画づくりに際しての課題

各部会において広幡地域の課題や過去5年間の事業を振り返り、計画づくりに際して検討すべき重要課題を整理しました。

計画づくりに際しての部会の課題

部 会	主要課題	補足等
共通課題	※団体の活動への参加促進 ※役員・リーダーの育成・確保 ※広幡公民館・広幡ふれあいセンターとの連携	
総務部会	1. 企業誘致	○地元企業の活性化
	2. 地域振興	○地域を活性化する事業の推進
	3. 活動費	○活動費の確保
安心・安全・防災部会	1. 防災	○地域が一体となった防災活動
	2. 弱者に対する交通指導	○弱者の交通安全対策
	3. 消防団活動	○消防団活動の活性化
環境部会	1. 広幡クリーン作戦	○地区が一体となったクリーン作戦
	2. 特産品の推奨	○特産品の普及・開発
	3. 他団体との美化共有	○団体同士が連携した美化活動
	4. ゴミの減量	○生ゴミの堆肥化
健康・福祉部会	1. 催し等の参加率の改善	○住民の親睦
	2. 独居高齢者の見守り	○独居高齢者の社会参画
	3. 健康への関心度	○健康維持・増進の啓発
教育・文化部会	1. 支援の組織づくり	○学校運営サポーター等の育成
	2. 関係団体活動継承・引き継ぎの円滑化	○PTA・学校関係者、担当者交代における引き継ぎのあり方の工夫
	3. 各支援団体・学校教育に関わる連携	○学校と地域が連携した教育・人づくり
	4. 施設改善	○小学校の施設環境の改善

第3章

広幡地域の将来像

1 「広幡はひとつ」で次代をひらく

広幡地域は牧田川などの豊かな水の流れが平野を育み、低湿で平坦な土地が広がっています。ここで人々が暮らして千年にも及ぶ長い歴史があると考えられ、現在まで清流や豊かな自然環境が残っています。

さらに、広幡地域は養老町の中央部に位置し、東海環状自動車道養老インターチェンジの開通により養老町の新たな玄関口になっています。

こうした自然が残り、農業が営まれ、さらには交通の要衝になった環境の中、全ての住民や7つの区、各団体が「広幡はひとつ」という合言葉で、協力して互いに高め合い、次代の地域を担う人を育てていくことが必要です。

2 広幡地域の将来像

広幡地域の自然、環境の良さを生かして、みんなが協力して知恵と汗を流し合い、これからも暮らしやすい地域を継承していくために、次のような地域の将来像を掲げます。

広幡はひとつ ～笑顔あふれるまち～

広幡地域においては、みんながまちづくりに参加して、少子高齢化・人口減少や多様性に対応し、笑顔があふれて安心・安全な魅力あるまちづくりをめざします。

また、広幡地域の特性である農業を育んだ豊かな水や緑にうるおされた暮らしの場を、未来に継承します。

さらに、養老インターチェンジの開通により、養老町の中央部で玄関口という特性を生かして、活力ある地域をつくります。

3 まちづくりの目標

将来像を実現するために、広幡地域のまちづくりの目標は、次の5つを掲げます。

① **みんなが参加し集うまちづくり**—全体、総務

「広幡はひとつ」という住民のつながりを一層強くして地域の絆を深めるために、みんながまちづくりに参加して気軽に集います。

② **安心・安全なまちづくり**—安心・安全・防災

心おだやかに暮らすことができるように、みんなで力を合わせて、犯罪がなく災害に対応できる体制をつくります。

③ **美しく快適なまちづくり**—環境

清流に潤された美しい環境を継承することができるように、道や川などを美しく保つとともに、ゴミを減らして自然を大切にします。

④ **健康でいきいき暮らせるまちづくり**—健康・福祉

みんなが元気に暮らし続け助け合うことができるように、世代を超えた人と人の輪を広げていきます。

⑤ **地域ぐるみで子どもを育むまちづくり**—教育・文化

地域全体が人づくりの場となるように、多世代が交流して学び合い、みんなで子を育て・子の育ちを進めます。

第4章

まちづくりの取組み

部会ごとの目標と取組みを枝分かれのように体系として整理すると、次のように「まちづくりの目標」―「重点的な取組み」―「みんなで進める取組み」という体系となります。

まちづくりの取組みの体系

部 会	まちづくりの目標	重点的な取組み	みんなで進める取組み
全体 総務部会	みんなが参加し集う まちづくり 	○資源の有効活用・住民交流の推進	■活動相互の連携の推進 ■若い世代が住みやすいまちづくり ■活動費の確保
安心・安全・防災部会	安心・安全なまちづくり 	○実効性の高い避難訓練の実施 ○防災意識を高める防災研修の実施	■災害に対する備え ■火災に対する予防 ■弱者に対する交通指導 ■消防団活動 ■地域経済の発展
環境部会	美しく快適なまちづくり 	○特産品の推奨 ○循環生活の推進	■広幡クリーン作戦の展開 ■花いっぱい運動の展開 ■生ゴミを堆肥にする運動の推進
健康・福祉部会	健康でいきいき暮らせるまちづくり 	○健康な心と体づくり ○健康な生活のすすめ	■住民の社会参画の推進
教育・文化部会	地域ぐるみで子どもを育むまちづくり 	○コミュニティでふれあい交流	■地域での子育て・子育て支援 ■地域の文化力の向上

1 重点的な取組み

重点的な取組みは、各部会において一つ以上取り組むものとしします。

《全体・総務分野》

○資源の有効活用・住民交流の推進

【活動の目的】

- 地域の余剰品や生産品を持ち寄って、必要とする人に廉価で提供し、資源や物資を有効活用するとともに、地域住民の交流の場を設けます。

【主な内容】

- 広幡ふれあいバザーやふれあいマーケットを開催して、住民交流の気運を高めます。
- 各家庭の余剰品（日用品）や野菜を集約して、販売します。
- 企業や団体とも連携して、生産品等を出品してもらいます。

【主なプレーヤー】

- 総務部会、他の部会の協力・連携

【スケジュールの考え方】

- 年に数回、広幡ふれあいバザーを開催するとともに、年に1回、ふれあいマーケットを開催します。
- 企業や団体との連携について、検討していきます。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
現状把握 実施	改善実施	改善実施	改善実施	改善実施

《安心・安全・防災分野》

○実効性の高い避難訓練の実施

【活動の目的】

- 水害で被害をこうむってきた歴史があることから、当時の教訓について学び合います。
- 南海トラフ巨大地震の発生や風水害も意識して、住民みんなが身を守り合うことができるような避難が可能になるように、実効性の高い避難訓練を実施します。

【主な内容】

- 行政等の関係機関と連携して、実効性の高い避難訓練を行います。
- 自助・共助を踏まえた避難訓練を行い、改善点を洗い出します。

【主なプレーヤー】

- 総務部会、安心・安全・防災部会、区、町

【スケジュールの考え方】

- 町から避難訓練に関する情報を得て、避難訓練を定期的の実施します。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施

○防災意識を高める防災研修の実施

【活動の目的】

- 防災に関する基本知識を身につけて、災害時において住民が適切な行動をとり、安全を確保できるようにします。
- 研修を通じて、住民の防災意識を高めます。

【主な内容】

- 専門家等による被災事例等の紹介により、防災に必要な知識を学びます。
- 専門家等の協力を得て、実用的な防災対策を講じることができるよう、災害図上訓練や必要な資料作成を行います。

【主なプレーヤー】

- 総務部会、安心・安全・防災部会、区、町

【スケジュールの考え方】

- 防災研修で学んだ情報や知識を活用して、避難訓練に反映します。
- 町から防災に関する情報を得て、防災研修を定期的の実施します。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施	避難訓練と防災研修のどちらかを実施

《環境分野》

○特産品の推奨

【活動の目的】

- 清らかな広幡の水を活かした特産品の栽培を住民に推奨し、環境保全に努めるとともに、住民の生活を意義あるものにします。
- そのために住民に特産品を提案し、その普及に努めます。

【主な内容】

- セリを広幡の特産品として位置づけ、まずは広幡地域自治町民会議で栽培を行います。
- 収穫したセリを住民に配布するなどして、住民がセリを栽培する気運を高めます。

【主なプレーヤー】

- 環境部会、他の部会の協力・連携、区

【スケジュールの考え方】

- セリの栽培を安定させて、生産を軌道にのせます。
- 住民にセリ栽培を普及させ、特産品として認識してもらえるよう努めます。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
セリの栽培、セリの配布等	セリの栽培、セリの配布等	セリの栽培、セリの配布等	セリの栽培、セリの配布等	セリの栽培、セリの配布等

○循環生活の推進

【活動の目的】

- 美しい広幡の自然を守るため、家庭から出るゴミの量を減らします。

【主な内容】

- 生ゴミを堆肥化して活用できるようにして、ゴミの減量を推進します。
- 各家庭で生ゴミを堆肥化できるような取り組みを企画・実施します。

【主なプレーヤー】

- 環境部会、区

【スケジュールの考え方】

- 町や関連団体の協力のもと、生ゴミの堆肥化について検討してもらいます。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
活動企画案の検討	活動の試行、課題の洗い出し	活動実施	活動実施	活動実施

《健康・福祉分野》

○健康な心と体づくり

【活動の目的】

- 住民が幸せに生活し、お互いに助け合う地域社会を築くためには、元気な心と体を育むことが基本になります。高齢化の進行に備えるために、隣近所・区・広幡でみんなが知り合いになることが必要です。
- このため、住民全員参加でそれぞれの人の健康づくり支援を行うとともに、人の和づくり・健康づくり運動を広めます。

【主な内容】

- バルシューレ、歩け歩け大会（ウォーキング）などを実施します。
- これらの運動を組み合わせて、住民が親しみやすい健康づくりの機会を提供し、お互いに顔見知りになり、交流して、健康維持・増進を図ります。

【主なプレーヤー】

- 健康・福祉部会、体育振興会、スポーツ推進員、長寿会、社協

【スケジュールの考え方】

- バルシューレや歩け歩け大会などをPRするチラシを作成します。
- 各団体へ呼びかけて、活動を開始して、毎年継続します。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
バルシューレや歩け歩け大会の実施	バルシューレや歩け歩け大会の実施	バルシューレや歩け歩け大会の実施	バルシューレや歩け歩け大会の実施	バルシューレや歩け歩け大会の実施

○健康な生活のすすめ

【活動の目的】

- 住民が健康な生活を送るためには、自身の健康に関心を持つことが重要です。
- そこで、健康の関心度を高めるためのセミナーを行い、個々の健康維持・増進を図ります。

【主な内容】

- 健康に関する有資格者を講師としたセミナーを年に数回行い、住民に健康への意識付けをし、関心度を高めます。
- 健康測定や体力測定を行います。

【主なプレーヤー】

- 健康・福祉部会、社協、町（保健センター）

【スケジュールの考え方】

- 町と連携して、広幡健康づくりセミナーを開始します。
- 広幡健康づくりセミナーをPRするチラシを作成し、配布します。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
セミナーの内容検討、実施	セミナーの内容検討、実施	セミナーの内容検討、実施	セミナーの内容検討、実施	セミナーの内容検討、実施

《教育・文化分野》

○コミュニティでふれあい交流

【活動の目的】

- 地域のまちづくりを担う次の世代を育成し、住み続けることができる広幡をつくるためには、異世代の交流が必要です。
- そこで、ふるさと学習やふるさとオリエンテーリングを実施したり地域全体が仲良くなる機会を提供したりします。

【主な内容】

- 園児、小中学生、保護者、地域の人たちが一緒になってふるさと学習、ふるさとオリエンテーリングや各種の体験、遊びを実施します。

【主なプレーヤー】

- 地域住民すべての人たち

【スケジュールの考え方】

- 活動企画案を検討して、地域住民が協力し合います。
- 次の年に活動を試行して次年度の計画を立て、毎年活動を継続します。

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
活動企画案の検討	活動の試行 次年度企画案 の検討	活動の実施 次年度企画案 の検討	活動の実施 次年度企画案 の検討	活動の実施 次年度企画案 の検討

2 みんなで進める取組み

みんなで進める取組みは、概ねそれぞれの部会が中心になって進める活動です。今までの活動を続けたり生かしたりしながら、効果的に進めます。

《全体・総務分野》

■活動相互の連携の推進

- 地域の拠点である広幡公民館に加え、新たな交流の場・いこいの場となる広幡ふれあいセンターの活発な運営に努めます。
- 各種団体が連携して、新たな取組みや支援が必要な活動を進めます。

■若い世代が住みやすいまちづくり

- 若い世代が子育て期に快適に暮らすことができるように、地域における

- 子育て支援を充実させます。
- 若い世代ができるだけ住み続けることができるような地域の雰囲気を作ります。

■活動費の確保

- 地域の余剰品や生産品を持ち寄って、バザーやふれあいマーケットを継続的に実施します。
- 地元の企業から、事業への協賛・協力を得て、活動を確保します。

《安心・安全・防災分野》

■災害に対する備え

- 災害に備えて、防災備品の充実を図ります。
- 災害時でもみんなが安全に避難することができるように、高齢者の見守り活動を進めます。
- 災害時において地域で一時的に安全を確保するための避難場所を確保します。

■火災に対する予防

- 火災予防を徹底するために、初期消火訓練の実施、消火器の普及促進を図ります。

■弱者に対する交通指導

- 子どもや高齢者を交通事故から守るために、交通安全教室・講習等を開催します。
- 見通しが悪い場所や車がスピードを出しやすい場所など、危険箇所マップを作成します。

■消防団活動

- 消防団活動を行うにあたり、参加しやすい消防団をめざします。
- 地域内の若手が団員として積極的に参加するように、消防団活動をPRします。

■地域経済の発展

- 地元企業の躍進を図るとともに、地域活動の発展に協力します。

《環境分野》

■ 広幡クリーン作戦の展開

○ポイ捨て防止の啓発を行うとともに、地域全体から投棄されたゴミをなくすことをめざして「広幡地区クリーン作戦」を継続して実施します。

■ 花いっぱい運動の展開

○地域における公共的な空間や花壇、ガーデニングが趣味の住民の庭などを生かすとともに、各団体が協力して花で彩られる地域をつくる花いっぱい運動を進めます。

■ 生ゴミを堆肥にする運動の推進

○家庭から出る生ゴミの減量をめざします。

《健康・福祉分野》

■ 住民の社会参画の推進

○住民の引きこもりや孤立を防止するために、地域各所でサロンの継続や開設を進めます。
○高齢夫婦世帯・ひとり暮らしの高齢者への声かけや訪問などの見守り活動を進めます。

《教育・文化分野》

■ 地域での子育て・子育て支援

○広幡こども園・広幡小学校の施設の改善を町に要望します。
○小学校を活用するなど、地域に子どもの居場所・学習支援の場を設けます。

■ 地域の文化力の向上

○地域文化の向上を図るため、公民館活動や小学校と連携してカルチャースクールを開催します。

第5章

計画の推進に向けて

1 取組みのスケジュールについて

① 概ね5年以内に重点的な取組みを活動開始・活動継続

このまちづくり計画は、概ね5年間の計画としてまとめています。

重点的な取組みについてはスケジュールの考え方を示していますが、各部会が概ね5年以内に着実に活動を開始し、継続することを目標にします。

② みんなで進める取組みを活動開始・活動継続

みんなで進める取組みについても、概ね5年以内に活動を開始し、継続することを目標にします。

2 地域自治町民会議の活性化

① 住民全体の参画

これからの時代は、地域住民誰もが自分でできる役割を果たしながら、みんなで地域社会を築いていく必要があります。このため、地域自治町民会議は個人でも参加が可能であることを生かして、若い世代から高齢世代までが参加しやすいように運営します。

また、地域自治町民会議では全世帯に活動の情報を発信して、提案を得ていく開かれた運営を進めます。

② 企業との連携

地域自治町民会議においては、企業の参画や協力も得られるように、柔軟に組織運営をします。